

上雷古銭と涌元古銭について

函館工業高等専門学校

埋蔵文化財研究会

第 50 回全道高等学校郷土研究発表大会

2015 年 11 月 19 日(木)

1 発表内容

- (1) 昨年まで研究していた涌元古銭について
- (2) 今年おもに研究をした上雷古銭について
- (3) 上記2つの古銭の比較・考察

2 研究をした古銭について

(1) 涌元古銭について

知内町涌元地区で道路工事の際に出土した一括出土銭で、2006年に知内町在住の工藤勇治氏が、知内町郷土資料館に寄贈したもので、銭種(古銭の種類)は現在わかっているだけで28種類で総計996枚、組成は唐銭から明銭で、最新銭は宣徳通寶である。およそ15世紀の終わり頃に埋められたものと考えられており、日高町で発見された賀張古銭と古銭の組成がよく似ているのが特徴である。

一括出土銭とは、もとは埋納銭と呼ばれていたもので、意図的に人の手で埋められたものを指す。埋める際に良い銭貨を選んで埋納されたなどの選択が加えられた可能性が高いという特徴がある。

(2) 上雷古銭について

1991年に、知内町在住の橋本政一氏が同町上雷地区で発見したものである。銭種は21種類で、現在の枚数は合計で107枚、組成は唐銭から明銭で最新銭は永楽通宝である。この永楽通宝が最も多く15枚も含まれている。永楽通宝が多いことは、涌元古銭や賀張古銭にも通じる特徴である。上雷古銭は、出土状況を見ればシングルファインドである。

シングルファインドとは、昔の人が落とした銭貨が埋まってしまったもので、当時の銭貨の流通状態を反映している。上雷古銭は、上で述べた涌元古銭の非常に近くで発見されている。北海道では今までに一括出土銭とシングルファインドの古銭が近くで発見された例というのは報告されていないため、今回が最初の例ではないか、と考えられている。

3 涌元古銭と上雷古銭の比較

我々は当初、上雷古銭をシングルファインドとして考えてきた。たしかに上雷古銭は一枚一枚の古銭が地表に散乱した状態で発見されている。しかし、本当にシングルファインドなら、寛永通宝などの江戸時代の銭貨と一緒に発見されないのは少し不自然である。ここで周辺の現地調査を行うことにした。その結果上雷古銭は、一括出土銭である可能性が高いのではないかと考えるようになり、この仮説の裏付けのためにつぎの方法で検証を行った。

- 年代別の古銭の銭種比率の比較
- 金属成分による比較

(1) 年代別の古銭の銭種比率の比較

上雷古銭と涌元古銭の銭種の比率を年代順に表示したものを図1に示す。2つのグラフはよく似ているが、よく見ると上雷古銭には宣徳通宝が見つかっていないため、線が途中で止まっている。そこで、宣徳通宝が上雷古銭に一枚でも含まれていた場合を仮定し、このグラフの最後の線を描き足すと図2になる。これを見ると本来シングルファインドであるはずの上雷古銭と、一括出土銭である涌元古銭の2つのグラフが非常によく似た形をしていることがわかる。

図1 年代別の古銭の出土割合

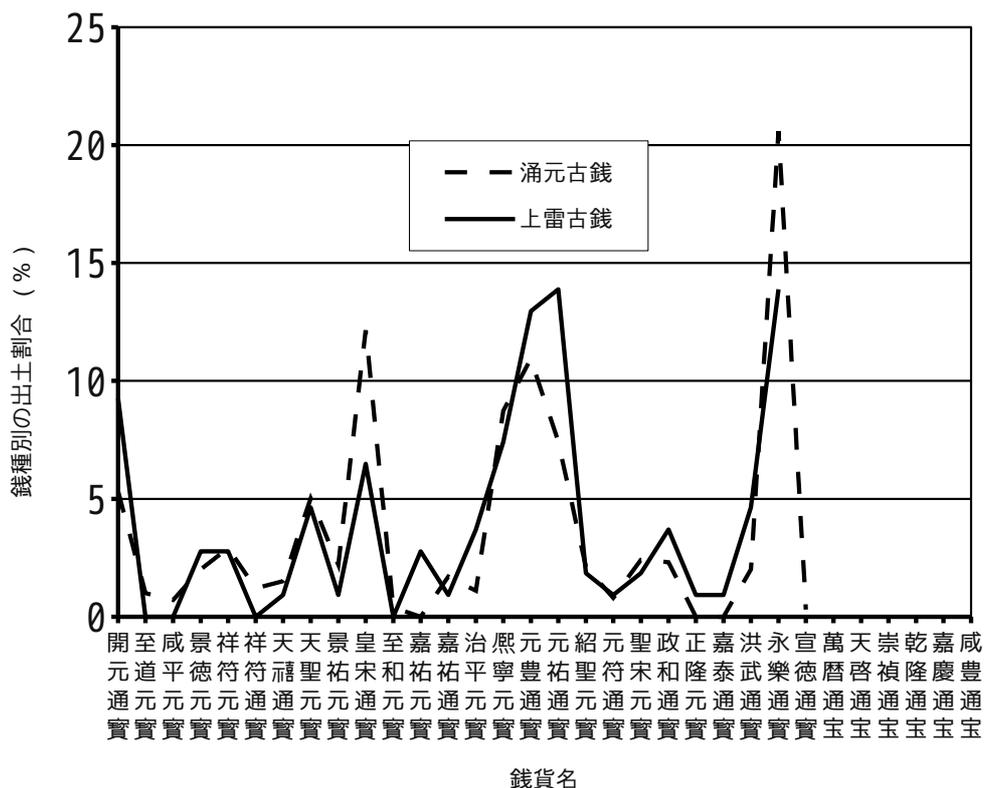
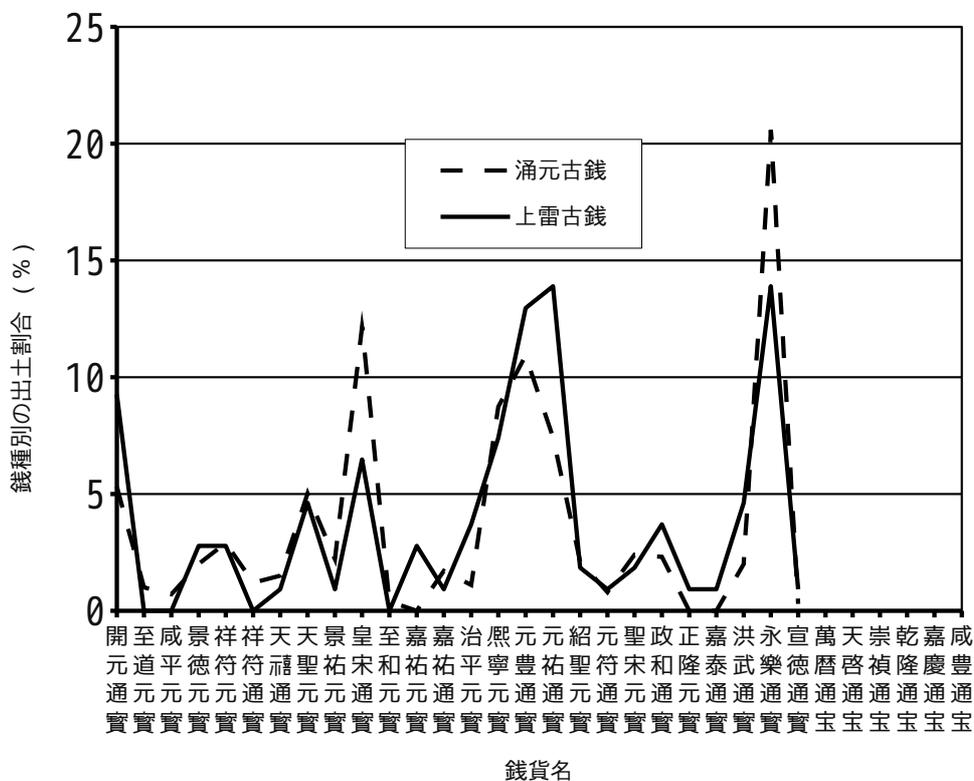


図2 上雷古銭に宣徳通宝が含まれていた場合



(2) 金属成分による比較

金属成分の分析結果を三角ダイアグラムに記す。三角ダイアグラムとは、三つの成分を一つのグラフ上で見ることができるグラフである。

上雷古銭の成分分析の結果をプロットしたものを図3(a)に、涌元古銭の成分分析の結果をプロットしたものを図3(b)に、2つのグラフをより詳細に比較するために重ねたものを図3(c)に示す。図3(a)と図3(b)よりプロットの傾向がよく似ていることがわかるが、図3(c)を見ると大きなかたまりだけでなく、グループAやグループBに見られる、かたまりから外れたプロットまで重なることがわかる。このことから、成分分析の面でも上雷古銭は涌元古銭とほぼ一致することが確認できた。

図 3(a) 上雷古銭の成分分析結果

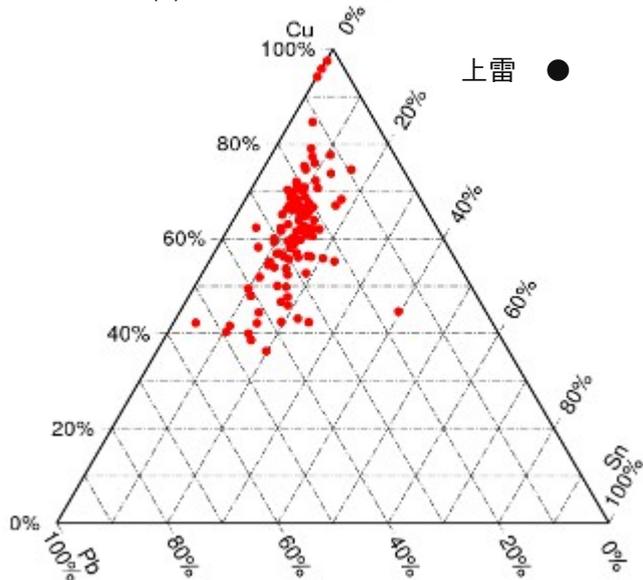


図 3(b) 涌元古銭の成分分析結果

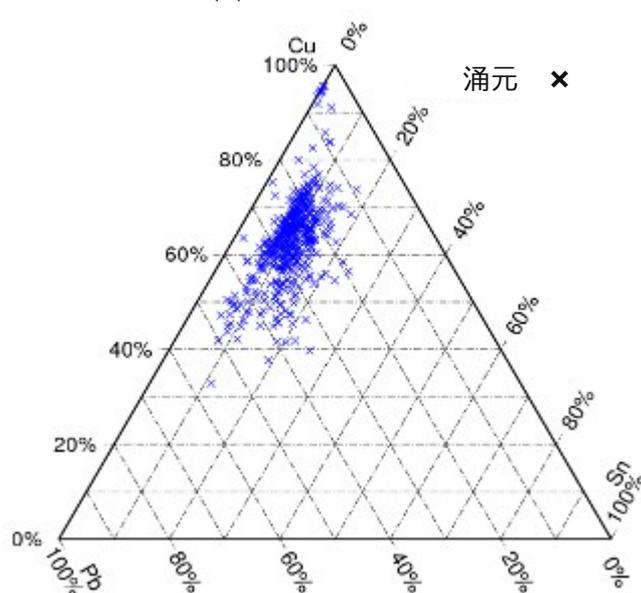
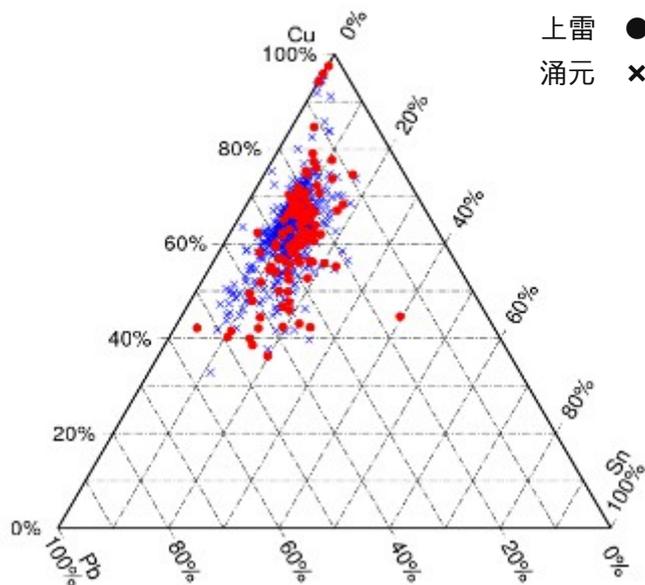


図 3(c) 上雷古銭と涌元古銭の成分分析結果を重ねたもの



4 まとめ

今回の各データや比較・考察をまとめると

- (1) 上雷古銭の銭種は唐銭から明銭にまとまっており、涌元古銭の銭種と重なっている。
- (2) 成分分析のプロットの集中する位置の傾向が類似している。これに加えて傾向から外れたプロットの位置も一致している。
- (3) シングルファインドが一括出土銭の周辺で発見された前例が北海道ではない。
- (4) 攪拌されてしまったあとに発見された

などが挙げられる。よってこれらのことから、上雷古銭は涌元古銭と同様に一括出土銭であるという結論に至った。

謝辞

古銭や資料を提供くださいました知内町郷土資料館様、および同館の高橋豊彦先生に御礼申し上げます。エネルギー分散型 X 線分析装置の使用についてご指導くださいました、函館工業高等専門学校の小林淳哉先生、銭貨の拓本のとり方などについてご指導くださいました、淑徳大学の三宅俊彦先生に御礼申し上げます。

函館工業高等専門学校 埋蔵文化財研究会
<http://www.maibun.org/>